

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

二戸市教育委員会

平成27年二戸市教育委員会第8回定例会（平成27年8月21日議決）

目 次

◆ I 点検・評価制度の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1 P
・ 審議の経過・・・・・・・・・・・・・・・・	2 P
◆ II 平成 26 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）	
・ 二戸市教育委員会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3 P
・ 教育委員会の主な活動内容、事業費・・・・・・・・	4 P
・ 平成 26 年度二戸市教育委員会議一覧・・・・・・・・	5 P～ 6 P
・ 内部評価・・・・・・・・・・・・・・・・	7 P
◆ III 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 26 年度「基本方針（目指す姿）を実現 するための施策の方向」の取組実績（5 分野 26 項目）・・・・・・・・	8 P
・ 点検・評価分析シート・・・・・・・・・・・・・・・・	9 P～ 35 P

I 点検・評価制度の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律には、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが規定されています。

今年度、二戸市教育委員会では平成 23 年度に策定した二戸市教育振興基本計画に掲げられた「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」に掲載されている主要事業の施策区分別に平成 26 年度における取組状況について、点検及び評価を行いました。評価はそれぞれが分野の目的に沿った取り組みができているかどうかを担当課による総括（一次評価）を行うとともに、学識経験を有する者を活用した点検・評価（二次評価）を行います。

なお、これら点検・評価の具体的な項目や議会への報告及び公表の方法については、特に国が基準を定めることは行わず、各教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 点検・評価の対象年度

平成 26 年度

2 点検・評価の内容

- (1) 平成 26 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）
- (2) 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 26 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績（5 分野 26 項目）

3 点検・評価の方法

教育委員会の運営状況及び平成 26 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績を取りまとめ、担当課による総括（一次評価）を行いました。

【二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員】

（敬称略、順不同）

氏 名	委 員 の 区 分
横 山 健 治	教育全般に学識経験を有する者
斎 藤 正 衛	二戸市立石切所小学校評議員
澤 典 雄	二戸市社会教育委員
田 口 和 子	二戸市文化財調査委員

■ 審議の経過

1 平成 27 年 6 月 8 日（月）～平成 27 年 6 月 22 日（月）

教育委員会事務局において、二戸市教育振興基本計画に掲げられた平成 26 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」に対する内部評価（一次評価）を行いました。

2 平成 27 年 7 月 6 日（月）

第 1 回二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会議を開催し、内部評価に関する意見・提言（外部評価・二次評価）を伺いました。

3 平成 27 年 7 月 27 日（月）

第 2 回二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会議を開催し、第 1 回二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会議における提言等を反映させた内部評価に関する意見・提言（外部評価・二次評価）を伺いました。

4 平成 27 年 8 月 21 日（金）

平成 27 年第 8 回二戸市教育委員会定例会において、「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」が審議され、議決されました。

Ⅱ 平成 26 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）

■二戸市教育委員会の概要

1 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現します。

2 教育委員会制度の仕組み

- ・教育委員会は首長から独立した機関であり、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村に設置されています。
- ・二戸市教育委員会は、5人の委員で構成しています。委員は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し、識見を有する人のうちから市長が市議会の同意を得て任命します。
- ・委員長は、委員の中から選挙され、教育委員会の会議を主宰し、委員会を代表します。
- ・教育長は、委員の中から教育委員会が任命し、教育委員会の指揮監督の下に教育委員会の権限に属する全ての事務をつかさどります。また、これらの事務を処理するために、教育委員会に事務局が置かれています。

二戸市教育委員会委員（平成 27 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 歴 等
委員長	清 川 泰	元 小 学 校 長
委員（委員長職務代理者）	平 栗 壽 隆	住 職
委員（委員長職務代理者）	佐々木 春 彦	自 営 業
委員	菅 原 ゆかり	会 社 役 員
委員（教育長）	鳩 岡 矩 雄	元 高 等 学 校 長

■ 教育委員会の主な活動内容

1 教育委員会議

(1) 教育委員会議の開催回数

平成 26 年度実績（平成 26 年第 4 回定例会～平成 27 年第 3 回定例会）

・ 定例会	12 回	
・ 臨時会	1 回	
・ 協議会	3 回	総計 16 回

(2) 議決の状況（付議事項数 計 43 件）

・ 教育委員会規則・規程等の制定・改廃	21 件
・ 教育機関の長・その他機関等の長の人事	4 件
・ 協議会・審議会委員等の任命・委嘱	6 件
・ 市議会定例会提出議案への同意	5 件
・ 選挙	2 件
・ 教科書採択	2 件
・ その他	3 件

(3) 教育委員会会議（定例会・臨時会）の傍聴者数

平成 26 年度実績	延べ 2 人
------------	--------

2 教育委員の活動（平成 26 年度実績）

学校訪問、会議・行事等への出席状況（※委員 1 人につき 1 回）

・ 教育委員会が主催する行事、式典、会議等への出席	238 回
・ 教育委員会以外の団体等が主催する行事、式典、会議等への出席	154 回

3 事業費（平成 26 年度実績）

決算額	2,804 千円
・ 報酬	2,496 千円
・ 旅費	147 千円
・ 交際費	134 千円
・ 負担金	27 千円

平成26年度二戸市教育委員会議一覧

区分	開催日	開催場所	日 程 内 容
第4回 定例会	26.4.25（金）	分庁舎 2階会議室	日程第 1 会期の決定 日程第 2 一般報告 日程第 3 議案第 1号 日程第 4 議案第 2号 二戸市浄法寺文化交流センター運営委員の人事について 二戸市教育委員会の後援・共催について
第5回 定例会	26.5.29（木）	分庁舎 2階会議室	日程第 1 会期の決定 日程第 2 一般報告 日程第 3 議案第 1号 日程第 4 議案第 2号 日程第 5 議案第 3号 日程第 6 議案第 4号 日程第 7 議案第 5号 日程第 8 議案第 6号 日程第 9 議案第 7号 日程第 10 報告第 1号

市議会定例会提出議案への同意について
（二戸市教育研究所条例の一部を改正する条例）

二戸市教育委員会処務規程の一部を改正する訓令

二戸市教育委員会服務規程の一部を改正する訓令

二戸市社会教育委員の人事について

二戸市立公民館運営審議会委員の人事について

二戸市立図書館協議会委員の人事について

二戸市学校給食センター運営委員の人事について

二戸市教育委員会の後援・共催について

区分	開催日	開催場所	日 程 内 容	
第1回 定例会	27.1.29（木）	1階会議室	日程第 1 日程第 2 日程第 3 会期の決定 一般報告 報告第 1号 二戸市教育委員会の後援・共催について	
第1回 協議会	27.2.19（木）	1階会議室	協議事項 協議事項 1 2 平成27年度教育施政方針要旨について その他	
第2回 定例会	27.2.22（日）	1階会議室	日程第 1 日程第 2 日程第 3 日程第 4 日程第 5 日程第 6 日程第 7 日程第 8 日程第 9 会期の決定 一般報告 選挙第 1号 選挙第 2号 議席の決定 議案第 1号 議案第 2号 議案第 3号 報告第 1号 二戸市教育委員会委員長の選挙について 二戸市教育委員会委員長職務代理者の指定について 平成27年度教育施政方針要旨について 市議会定例会提出議案への同意について （権利を放棄することについて） 教育財産の用途廃止について 二戸市教育委員会の後援・共催について	
第1回 臨時会	27.2.26（木）	1階会議室	日程第 1 日程第 2 会期の決定 議案第 1号 教育機関の長の人事について	
第3回 定例会	27.3.24（月）	1階会議室	日程第 1 日程第 2 日程第 3 日程第 4 日程第 5 日程第 6 日程第 7 日程第 8 日程第 9 日程第 10 日程第 11 日程第 12 日程第 13 日程第 14 日程第 15 日程第 16 日程第 17 会期の決定 一般報告 議案第 1号 議案第 2号 議案第 3号 議案第 4号 議案第 5号 議案第 6号 議案第 7号 議案第 8号 議案第 9号 議案第 10号 議案第 11号 議案第 12号 議案第 13号 議案第 14号 報告第 1号 二戸市教育委員会公告式規則の一部を改正する規則 二戸市教育委員会会議規則の一部を改正する規則 二戸市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則 二戸市教育委員会組織規則の一部を改正する規則 二戸市教育委員会事務委任規則の一部を改正する規則 二戸市教育委員会教育長の権限に属する事務の一部を校長に委任する規程の一部を改正する訓令 二戸市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令 二戸市教育委員会安全衛生管理規程の一部を改正する訓令 二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員会設置要綱の一部を改正する告示 二戸市民文化会館条例施行規則の一部を改正する規則 二戸市立図書館管理規則の一部を改正する規則 課長等の人事について 教育機関の長の人事について その他の教育機関の長の人事について 二戸市教育委員会の後援・共催について	

■ 内部評価（教育委員活動総括）

◆ 平成 26 年度における教育委員会の会議は、定例会 12 回、臨時会 1 回、協議会 3 回が開催された。今年度は、9 年超にわたり教育振興のためご尽力くださった森川則子委員が退任され、新任の菅原ゆかり委員が就任された。

◆ 平成 26 年度における教育委員会の活動は、定例行事である市内小中学校の入学式・卒業式や運動会・体育祭、学習発表会等へ出席し、児童生徒の活動を激励したほか、保護者・地域住民との交流の中から、情報収集に努めた。

また、市民に学校を公開する日等においては積極的に小中学校を訪問し、日常の授業を参観しながら学校現場の実態把握に努め、教職員と意見交換を行い、教育委員会において情報共有と課題解決に向けた発言、提言等を行った。

また、教育振興運動関係行事への参加や、各種会議等への参加の際は、教育委員として積極的に意見等を述べている。

◆ 教育委員は、教育行政の諸課題について深い理解が求められることから、二戸地区教育推進協議会研修会や岩手県市町村教育委員協議会委員研修会、東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、教育課題の把握及び分析、委員としての資質向上に努めた。

◆ 教育委員会の公開については、ホームページ等により定期的に告知しており、ホームページは市民が分かりやすい内容構成に努めている。さらに広く教育行政の周知に努め、市民の理解を求めていくことが大切である。また、教育委員会の傍聴者については、教育委員の選任関係議案に伴う報道関係者 2 名であった。

Ⅲ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 26 年度「基本方針（目指す姿）を

実現するための施策の方向」の取組実績

・点検・評価項目

点検・評価項目は、二戸市教育振興基本計画に掲げられた「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」について、平成 26 年度において予算措置がなされたものを基本としています。

1－教育委員会の充実	～市民から信頼される教育行政推進のために～	【前掲 1 P～4 P】
平成 26 年度二戸市教育委員会議一覧		【前掲 5 P～6 P】
内部評価及び点検・評価項目		【前掲 7 P～8 P】
2－生涯学習の充実	～市民が生涯にわたっていきいきとくらすために～	
(1) 広がりや深まりのある生涯学習の推進		
①多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信等	【生涯学習課】	……10 P
3－学校教育の充実	～子供たちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～	
(1) 自立して生きる力を育む教育の推進		
①学力向上対策の推進	【教育企画課】	……11 P
②教育相談・適応指導の充実	【教育企画課】	……12 P
③国際理解教育の推進	【教育企画課】	……13 P
(2) 特別支援教育の推進		
①特別支援教育の充実	【教育企画課】	……14 P
(3) 健康・安全教育の推進		
①学校保健・安全教育の充実	【教育企画課】	……15 P
②学校給食の充実	【学校給食センター】	…16 P
③地産地消の推進	【学校給食センター】	…17 P
(4) 幼児教育・高等学校教育の充実		
①就学前教育の支援等	【教育企画課】	……18 P
(5) 教育環境の整備・充実		
①就学支援の充実等	【教育企画課】	……19 P
②福岡中学校建設事業等	【教育施設整備課】	…20 P
4－社会教育の充実	～社会全体で教育力向上のために～	
(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上		
①教育振興運動の推進等	【生涯学習課】	……21 P
②公民館各種講座の実施	【市立公民館】	……22 P
③図書サービスの充実	【図書館】	……23 P
(2) 社会教育施設の環境整備		
①公民館施設の計画的改修	【市立公民館】	……24 P
②図書館の整備・充実	【図書館】	……25 P
5－芸術文化の振興	～潤いのある豊かな生活のために～	
(1) 芸術文化の振興		
①郷土芸能保存団体への活動支援等	【文化財課】	……26 P
②教育文化団体への活動支援等	【生涯学習課・公民館】	27 P
(2) 文化財の保護・保存と活用		
①天台寺文化財修繕事業の促進	【文化財課】	……28 P
②史跡九戸城跡の保護と活用	【文化財課】	……29 P
③市内遺跡発掘調査事業等	【文化財課】	……30 P
(3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承		
①市史編さん事業の推進	【生涯学習課】	……31 P
②歴史民俗資料の収集と研究の推進	【文化財課】	……32 P
6－スポーツ・レクリエーションの振興	～スポーツを通じた健康づくりを進めるために～	
(1) みんなが楽しむスポーツの振興		
①スポーツ指導者の育成・健康づくりの支援等	【生涯学習課】	……33 P
②スポーツ施設の整備・充実	【生涯学習課】	……34 P
(2) 夢と感動の競技スポーツの推進		
①各種スポーツ大会・教室の開催	【生涯学習課】	……35 P

以上、9 ページから 26 項目

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信等			担当課等		生涯学習課		
事業名称		2 生涯学習の充実							
項目名称		(1) 広がりと深まりのある生涯学習の推進							
①事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第5条（市町村教育委員会の事務）						
	実施方法		■直接実施 □業務委託 □補助金交付 □その他（ ）						
	事業費内訳		■国庫補助 □県単 ■一般財源 ■その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		市民 放送大学生 保護者及び地域住民 1歳6カ月健診対象親子						
	目的（目指すべき姿）		あらゆる世代の市民が「いつでも・どこでも・だれでも」学習できる、多種多様な市民ニーズに対応した環境整備を進める。また、生涯学習に市民一人ひとりが意欲と生きがいをもって取り組めるよう、主体的に参加できる学習機会の充実を目指す。						
	事業内容 （平成26年度）		1 多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信（広報誌「こしやーる」欄やHP等を利用した情報提供） 2 市民の「学び直し」など生涯学習活動の支援 ・放送大学岩手学習センター二戸校の管理と活用 ・成人教育講座の開催（高齢者のための講演会、浄法寺地区教育連絡会、パソコン教室） ・学校開放講座の開催支援 ・1歳6カ月健診時の読み聞かせ講座						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	生涯学習情報掲載誌の発行回数	回	12	12	12	12	12
		2	二戸校配架科目数（延べ）	科目	101	120	134	156	173
		3	成人教育講座開催数	回	4	3	3	4	3
		4	学校開放講座開催数	回	7	12	12	17	15
		5	読み聞かせ講座開催数	回	10	10	10	10	10
	事業効果	1	二戸校利用者数	人	120	54	56	172	54
		2	成人教育参加者数（延べ）	人	556	229	306	322	360
		3	学校開放講座参加者数（延べ）	人	392	230	705	1,155	1,830
		4	読み聞かせ講座参加者数	人	332	394	337	349	422
③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	556	574	746	671	569
④事業評価	総括（成果と課題）	【多様なメディアを活用した生涯学習情報の発信】 1. 市広報誌を利用して生涯学習情報を提供することで、効率的に市民への情報提供ができた。 2. ホームページについては、そのつど新情報の更新を行い、適時に発信できる情報ツールとして効果的な活用に一層努める。 【市民の「学び直し」など生涯学習活動の支援】 1. 放送大学二戸校の利用者数は、頻繁に利用する放送大学生の利用が減ったため大きく減少した。また、一般利用者が少ないことから、身近な生涯学習の拠点として有効に活用されるよう市民への更なる周知とより利用しやすい環境の整備に努めたい 2. 浄法寺地区教育連絡会の講師については、所属先の団体の出前講座を活用したことから、予算の負担軽減が図られた。 3. 2日間にわたって開催した初心者向けパソコン教室については、参加者の技能レベルにばらつきが見られ、基礎講習を物足りなく感じた方もいたようであった。講習内容を予め詳細に伝えるなど、それぞれのレベルに応じた講習が受けられるような工夫が必要である。 4. 学校開放講座については、苫米地美智子選手の講演会を開催したことなどにより参加者数の増加がみられ、より多くの方に学習機会の提供が図られたことがうかがえる。 5. 読み聞かせ講座では、健診時に読み聞かせを行うだけでなく、家庭での読み聞かせのポイントなどを解説したチラシを配付することで、より効果的に読書習慣の定着に結びつくようにしている。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート

主要事業		学力向上対策の推進		担当課等		教育企画課			
事業名称		3 学校教育の充実							
項目名称		(1) 自立して生きる力を育む教育の推進－①							
① 事務事業概要	実施根拠法令		教育基本法 学校教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）		市の教育課題である「学力向上」について、教育委員会・学校が一体となって取り組み、学力向上に関する各事業を推進することにより、児童生徒に基礎的・基本的な学習内容の習得と考える力が身につくよう授業改善を図ることを目的とする。						
	事業内容 （平成26年度）		1 学力と創造性を伸ばす教育の推進（学力向上対策の推進）						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	学習定着度状況調査 （県平均100）	%	（小）98 （中）97	（小）102 （中）99	（小）100 （中）100	（小）103 （中）100	（小）104 （中）100
		2							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	—	2,120	1,867	1,682	2,207
④ 事業評価	総括 （成果と課題）	1. 岩手県学習定着度状況調査は、算数・数学において、小・中学校ともに、岩手県の平均正答率を上回った。これは、小・中学校ともに、全学年が3年間連続して県平均を上回る状況である。全国学力・学習状況調査は、国語において、小・中学校ともに、基本的な問題及び応用的な問題のいずれも、全国の平均正答率を上回った。中学校におけるこの状況は、過去5年間の中で初めてである。 2. 事業実績の数値について、平成22・23年度は算数・数学の調査結果指数、平成24年度は国語と算数・数学の調査結果の平均値指数、平成25年度以降は実施した教科すべての調査結果の平均指数である。このことから、算数・数学に限らず、どの教科も着実に伸びてきている。 3. 基礎的な学習内容の定着には、何度も繰り返し学ぶことが大事であることから、算数・数学の重点指導項目の設定等引き続き取り組む必要がある。また、考える力が身に付くよう授業を工夫することが大事であることから、教員の研修を引き続き充実させる必要がある。さらに、予習や復習と家庭学習を連動させた取組やテレビ等の視聴時間や読書など、家庭での過ごし方を考え改善する取組を推進する必要がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート

主要事業	教育相談・適応指導の充実				担当課等		教育企画課		
事業名称	3 学校教育の充実								
項目名称	(1) 自立して生きる力を育む教育の推進－②								
① 事務事業概要	実施根拠法令		教育基本法 学校教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）		保護者・児童生徒が抱える学校生活に関する不安や悩みの緩和・解消と問題行動等に対応できる教育相談・支援体制を整備し、子どもたちがお互いに尊重し合い、安心して学習や学校生活を送ることができる環境整備を図る。 学校不適応児童生徒については、不登校の状況を改善できるよう、学校と連携し相談・支援体制の確立に努める。						
	事業内容 (平成26年度)		教育相談・適応指導の充実 (学校巡回訪問、いじめ問題対策委員会、学校生活アンケート 等)						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	不登校児童生徒の出現率	%	小 0.06 中 2.78	小 0.13 中 2.17	小 0.27 中 2.38	小 0.35 中 2.15	小 0.29 中 2.39
		2							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	3,968	4,950	3,877	2,573	2,533
④ 事業評価	総括 (成果と課題)	1. 教育相談員の複数配置により、定期的な学校訪問を実施することで、児童生徒の状況についての情報共有の充実がより一層図られるようになった。また、相談業務においても、学校生活に関すること、生活及び行動に関すること、家庭教育に関すること、その他児童生徒の多岐にわたる問題全般について適切な対応を行うことができた。 2. 市では、「いじめ防止対策推進法」の施行を受け、学校・地域・家庭等の関係者との連携の下、いじめ問題の克服に向けて取り組むため、「二戸市いじめ防止等のための基本的な方針」を策定し、この方針に基づく「いじめ問題対策委員会」を設置・開催することにより、関係機関との協力体制を構築することができた。 また、各小中学校においてもいじめ防止等の対策に関する「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止、早期発見等に取り組んでいる。 3. 児童生徒及び保護者が抱える問題の解決には、学校だけでは対応が困難な状況も見られるため、教育委員会事務局内に配置する教育相談員の必要性は高い。また、不登校児童生徒の出現率は、中学校で2%を超える状況が続いていることに加え、小学校でも増加傾向にあり、さらなる教育相談・適応指導の充実が求められる。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート

主要事業		国際理解教育の推進		担当課等		教育企画課			
事業名称		3 学校教育の充実							
項目名称		(1) 自立して生きる力を育む教育の推進－③							
① 事務事業概要	実施根拠法令		教育基本法 学校教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）		二戸市中中学生海外派遣研修協議会は、二戸市内の中中学生による海外派遣研修に関わる事業運営等を行うことを目的とする。 異国の文化を学び触れ合うことにより、国際感覚を有する次代を担う人材を育成する。						
	事業内容 （平成26年度）		●二戸市中中学生異文化交流研修事業（平成26年6月21日（土）～22日（日）） 市内の中中学生30名が岩手大学に通う多国籍の外国人留学生と岩手山青少年交流の家において、寝食を共に活動し、異文化に対する理解を深め相互交流を行った。 ●二戸市中中学生海外派遣研修事業（平成27年1月4日（日）～11日（日）） 市内の中中学生10名がイギリスのロンドンやグラスゴーなどを訪問し、ホームステイを主とした海外での生活や体験、交流を行い、現地での英会話や文化に直接触れることができた。						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	異文化交流研修事業	人	24	28	30	28	30
		2	海外派遣研修事業	人	—	10	10	10	10
		3							
事業効果	1								
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	200	4,100	5,200	5,200	6,300
④ 事業評価	総括（成果と課題）	1. 異文化交流研修事業は、岩手大学国際教育センターの協力のもと、多くの国の留学生と交流することができた。また、個人負担もない為、希望者は誰でも気軽に参加することができた。 2. 海外派遣研修事業は、田中館愛橘博士ゆかりの地ということもあり、イギリスのロンドン・グラスゴーなどを訪問した。他国の文化に触れ視野が大きく広がったほか、博士の業績についても学び、海外で郷土の偉人について理解を深めることができた。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	特別支援教育の充実		担当課等	教育企画課					
事業名称	3 学校教育の充実								
項目名称	(2) 特別支援教育の推進								
① 事務事業概要	実施根拠法令	教育基本法 学校教育法							
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）							
	事業費内訳	☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）							
	対象（～に対して）	障がいを持つ児童生徒や特別支援を必要とする児童生徒 岩手県教育委員会							
	目的（目指すべき姿）	特別支援教育は、個々の教育的ニーズに応じた適切な対応が求められている。本市では、これまで特別支援教員補助員の配置や巡回教育相談の実施、関係機関との連携により障がいの状況に応じた指導を進めてきたが、発達障がいなど特別な支援を必要とする児童生徒もあり、一人ひとりの状況に応じた学習環境の設定やきめ細やかな対応を行う。 このことから、特別支援教育支援員を配置し、学習・学校生活両面の支援や教員を補助することにより、円滑な学校教育活動の遂行を図る。また、特別支援学校高等部については、平成 28 年度より県立福岡工業高等学校へ分教室の開設が決定している。今後引き続き、独立校として設置されるよう要望を行う。							
	事業内容 (平成 26 年度)	・特別支援教育の推進 ・特別支援学校高等部の開設決定（平成 28 年度より）							
② 事業実績・効果	区 分		単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	
	事業の実績	1	特別支援員の人数	人	14	13	12	13	13
		2	特別支援員配置校	校	9	9	7	8	7
		3							
		4							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分		単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	
	決 算 額		千円	14,922	14,074	13,044	14,014	14,440	
④ 事業評価	総括 (成果と課題)	1. 特別な支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう特別支援教育支援員を配置し、きめ細やかな支援や学級全体の円滑な運営に努めた。また、盛岡みたけ支援学校二戸分教室小学部（石切所小学校）や中学部（福岡中学校）など、望ましい環境での支援教育が行われた。 2. 二戸市には、平成 20 年 4 月に盛岡みたけ支援学校二戸分教室小学部が石切所小学校に開設、25 年 4 月に同中学部が福岡中学校に開設された。 また、平成 28 年 4 月からは、高等部が県立福岡工業高等学校に開設することが決定されたところであるが、今後は独立した小中高からなる一貫校の設置を引き続き岩手県へ要望していく。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	学校保健・安全教育の充実							
事業名称	3 学校教育の充実			担当課等	教育企画課			
項目名称	(3) 健康・安全教育の推進－①							

①事務事業概要	実施根拠法令	学校保健安全法						
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳	☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）	児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）	本市では、これまで医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力・指導を頂きながら、学校保健会を中心に、健康教育に取り組んできた。しかし、児童生徒の体格は確実に向上しているものの、生活習慣に起因すると思われる疾病の増加、中でも肥満傾向の児童生徒出現率については、岩手県（平成21年度学校保健統計ワースト1位）の中でも県北地域の出現率が高く、二戸市においては全国平均を大きく上回る状態が続いている。 そのため、肥満対策として運動・食事両面での取組が期待されており、今後は、健康診断の結果や体力・運動能力・運動習慣検査の結果を基に、児童生徒が自らの健康について問題意識を持ち、課題解決に向けて取り組む環境づくりを目指す。 学校で実施する交通安全教室やスクールガード等による地域の見守りを通じて、児童生徒に対する安全教育を推進する。						
	事業内容 （平成26年度）	1 学校保健の推進 2 安全教育の推進						

②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績 (肥満児童 生徒出現率)	1	二戸市（小4）	%	18.32	12.96	17.12	14.35	11.06
			岩手県	%	12.01	12.00	12.25	11.03	11.50
			全国	%	8.30	7.62	8.26	8.26	8.14
		2	二戸市（中1）	%	18.18	13.07	15.13	19.78	18.65
			岩手県	%	12.20	12.50	11.66	12.43	11.31
			全国	%	9.98	9.40	9.68	9.62	9.38
	事業効果	1							

③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	12,668	12,979	13,139	12,411	12,314

④事業評価	総括 (成果と課題)	【学校保健の推進について】 1. 児童生徒の健康を将来にわたって守ろうという観点から、毎年度各種健診を実施し、学校や医療機関等との連携を密にしながら取り組みを進め、円滑に事業を実施することができた。 2. 二戸市の肥満率は、全国の中でも高い状態であり、将来の生活習慣病を予防するためにも改善に向けた取り組みを進めているが、単年で見ても全国と比べて高い状況であるとともに、平成23年の小学4年生（全国比出現率 1.70 倍）の3年後である平成26年の中学1年（同 1.99）も引き続き出現率が高い現状であるために、今後も各関係機関と連携を図りながら、各種取り組みを進める必要がある。 3. 学校医等の専門家からは、「小学校の肥満傾向児出現率は改善傾向が見られるが、中学校の肥満傾向生徒出現率が県や全国と比べて高いことが問題」と言われている。今後は、中学生になってからの出現率の増加を抑えるよう専門家や学校、家庭と連携した取組を模索していく必要がある。 【安全教育の推進について】 1. 各学校で交通安全教室を開催し、児童に対し交通ルールや自転車の安全運転の指導を行った。また、今後もスクールガード等による地域の見守りの体制づくりに努める。						
-------	---------------	--	--	--	--	--	--	--

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	学校給食の充実			担当課等	二戸市学校給食センター				
事業名称	3 学校教育の充実								
項目名称	(3) 健康・安全教育の推進－②								
① 事務事業概要	実施根拠法令		学校給食法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 教職員						
	目的（目指すべき姿）		学校給食を充実することによって児童生徒の健康の保持増進を図るとともに、望ましい食習慣を養い、食の大切さや食への理解を深める。						
	事業内容 （平成26年度）		市内小・中学校に対する学校給食の提供 小学校9校、中学校5校（盛岡みたけ支援学校二戸分教室小・中学部含む）						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	給食数	食	477,227	474,031	451,000	437,260	422,243
		2	給食日数	日	178.5	180.5	179.0	175.5	176.0
		3	食育指導（TT）	回	—	—	—	57	56
		4							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	119,770	119,165	113,239	109,899	109,334
④ 事業評価	総括（成果と課題）	1 児童生徒の心身の健全な発達に資するため、安全で安心な給食の提供に努めるとともに文部科学省が示す「学校給食摂取基準」を参考に栄養バランスのとれた献立により、1日約2,400食を市内14小中学校に提供した。また、学校教諭と栄養教諭が連携した食育指導（※TT指導）を展開したことにより、児童生徒が自らの食生活について正しい知識を深めることができた。 2 児童生徒が学習した内容を家庭に「食育だより」を通じ周知していくなど、家庭と連携した食育指導の充実に努めた。 3 食生活の多様化により児童生徒も生活習慣病や食物アレルギーなどの健康問題が増加傾向にあることから、家庭や学校、関係機関との連携のもと健全な食生活の構築に努めていく必要がある。 4 今後の施設の運営についての検討が必要である。 ※ TT（チームティーチング）：複数の教師が協力して授業を行う指導方法							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	地産地消の推進			担当課等	二戸市学校給食センター				
事業名称	3 学校教育の充実								
項目名称	(3) 健康・安全教育の推進－③								
① 事務事業概要	実施根拠法令		学校給食法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）		市内生産物を学校給食の食材として優先的に使用することによって、地場製品の消費拡大に貢献するとともに、食生活が様々な人の活動に支えられていることなど、児童生徒の食への理解を深める。						
	事業内容 (平成26年度)		二戸市産農産物等の地消推進						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	地産地消	%	36.9	40.6	43.5	45.2	45.2
		2							
		3							
		4							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	119,770	119,165	113,239	109,899	109,334
④ 事業評価	総 括 (成果と課題)	1 毎月19日（食育の日）、25日（二戸食の日）を中心に地元産の食材を取り入れた給食の提供により、児童生徒に郷土の優れた食文化についての理解と食生活が人々の様々な活動によって支えられていることへの理解が深まった。また、生産農家及び地元産取扱い業者の協力を得ながら生産物の品質、安全性の意識の向上を図った結果、昨年度のきゅうり農家の参入により、地産地消率が維持された。今後、年間を通じ食材を受けられる供給体制の在り方など、更なる地産地消に向けた研究に努める。 2 市農林課の協力のもと、新たな試みとして学校給食の食材全てを二戸産の農畜産物で提供する取り組みを実施したことにより、地産地消の推進、農業の生産振興に寄与した。また、新鮮で安全・安心な食材の確保と生産、流通、消費について正しい理解を深めることができた。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	就学前教育の支援等			担当課等	教育企画課				
事業名称	3 学校教育の充実								
項目名称	(4) 幼児教育・高等学校教育の充実								
① 事務事業概要	実施根拠法令		二戸市幼稚園就園奨励交付補助金要綱 幼稚園教育要領 保育所保育指針学習指導要領						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		保育料を減免する幼稚園の設置者 幼稚園 小学校の教諭 保育士						
	目的（目指すべき姿）		・ 幼稚園教育の普及・保護者の経済的負担軽減のため、就園に対する支援を行う。 ・ 幼児が円滑に小学校に適応できるよう、幼稚園・保育所と小学校間の連携を深め、情報共有と相互理解を図る。						
	事業内容 (平成26年度)		1 就園奨励費補助事業 2 幼・保・小連携の強化						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	就園奨励費補助事業	人	186	188	158	151	153
		2	幼・保・小連携 推進会議	回	3	3	3	3	3
		3							
		4							
	事業効果		1						
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	補助金 19,417	補助金 20,873	補助金 16,699	補助金 17,169	補助金 20,080
④ 事業評価	総 括 (成果と課題)	【就園奨励費補助事業】 幼稚園の就園費用の一部を補助することにより、幼稚園教育の普及・保護者の経済的な負担軽減を図ることができた。							
		【幼・保・小連携の強化】 幼稚園・保育所・小学校の教職員による連携推進会議及び研修会の実施、また、授業参観や情報交換・意見交流を行うことにより、相互理解と指導方法の工夫が図られ、小学校での円滑な受け入れが図られた。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		就学支援の充実等		担当課等		教育企画課			
事業名称		3 学校教育の充実							
項目名称		(5) 教育環境の整備・充実－①							
①事務事業概要	実施根拠法令		学校教育法 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 二戸市就学援助費支給要綱 学校図書館法						
	実施方法		■直接実施 □業務委託 □補助金交付 □その他（ ）						
	事業費内訳		■国庫補助 □県単 ■一般財源 □その他（ ）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 教職員						
	目的（目指すべき姿）		・ 教育の機会の均等を確保するため、経済的理由により就学困難な者に対し、給食費、学用品費等について援助する「要保護及び準要保護児童生徒援助」を行い、就学支援体制の充実に努める。 ・ 児童生徒が読書を通して、言葉を学び、創造力を培うとともに、子どもたちの学習への興味・関心と豊かな心を育むため学校図書の充実等に努める。						
	事業内容 （平成26年度）		・ 就学支援の充実。学用品費・学校給食費・医療費等経費の支給による保護者の経済的負担の軽減。 ・ 学校用図書の充実。学校図書館支援員の配置及びブック・ツアーの実施。						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	要保護及び準要保護児童生徒援助	人	294	288	268	263	255
		2	学校図書標準充足率（小学校）	%	104.3	103.1	108.8	113.1	113.7
		3	学校図書標準充足率（中学校）	%	96.3	99.8	99.7	103.3	105.7
		4	学校図書館支援員	人					2
	事業効果	1							
③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決算額	1	要保護及び準要保護児童生徒援助	千円	22,396	25,440	23,167	23,388	23,281
		2	図書購入費（小学校費）	千円	1,435	4,024	1,690	2,959	1,826
		3	図書購入費（中学校費）	千円	1,078	3,171	1,377	1,805	1,215
		4	学校図書館支援員	千円					2,442
④事業評価	総括（成果と課題）	【就学支援の充実】 1. 年度当初の申請だけでなく、随時申請を受け付け、経済的理由により就学困難と認められる255人の児童生徒に対して給食費、医療費及び就学に必要な学用品費等各種経費について援助した。 2. 就学支援制度の周知を図り、引き続き就学困難者の把握に努める必要がある。 3. 平成25年8月の生活保護基準引き下げ以降、その影響が及ばないよう引き下げ以前の基準を用いて認定を行っている。 【読書活動の充実】 1. 平成26年度は3,041千円（通常配分前年度比277千円増）を配分し、児童・生徒のニーズに応える読み物、教科等の学習に利用できる学校図書資料等を整備した。 また、新規事業として、児童生徒がより利用しやすい学校図書館を目指すため、学校図書館支援員2名を配置し、各小中学校を巡回訪問して、蔵書の管理、環境整備、図書館の飾り付け、読み聞かせ等を行った。 2. 平成26年度の学校図書標準充足率実績を見ると小中学校共に100%を超えているが、学校別では小中学校それぞれ1校が100%に達していないので、適正な補充、廃棄を行いながら、充足率のクリアを目指して引き続き整備を進める必要がある。 また、学校図書館支援員については、平成27年度は1名増員し、3名体制で更なる学校図書館の充実を図る。 3. 児童の読書活動推進と市立図書館の利用促進を図るため、市のバスを運行しブック・ツアーを実施した。御返地小学校及び二戸西小学校がそれぞれ年3回利用した。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	福岡中学校建設事業等		担当課等	教育施設整備課				
事業名称	3 学校教育の充実							
項目名称	(5) 教育環境の整備・充実－②							
① 事務事業概要	実施根拠法令		学校教育法					
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）					
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（ 起債、基金）					
	対象（～に対して）		児童生徒 教職員					
	目的（目指すべき姿）		安全で安心な学校生活をおくるための教育環境の整備					
	事業内容 (平成26年度)		1 福岡中学校建設事業 2 小中学校リフレッシュ事業 単位：(千円)					
② 事業実績・効果	区 分		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1 福岡中学校建設事業	1式					
		測量設計業務		10,732	93,503			
		校舎建築工事				552,062	2,525,661	
		旧校舎解体工事						243,405
		2 小中学校リフレッシュ事業	1式					
		御返地小改修工事（屋上防水）		1,275				
		金田一小改修工事（屋根塗装）		4,775				
		石切所小昇降機改修工事		3,990				
		福岡中改修工事（体育館天井）		14,538				
		御返地小プールろ過機改修工事			5,556			
		御返地小プールサイド改修工事			9,349			
		石切所小ガス設備改修工事			567			
		中央小改修工事（特別支援教室）			1,533			
		金田一中バックネット改修工事				6,609		
		金田一中トイレ改修工事				2,282		
		中央小プールろ過機改修工事					6,689	
		石切所小プールろ過機改修工事					6,115	
		二戸西小フェンス改修工事					585	
		御返地中校舎外壁改修工事					17,931	
		浄法寺中プールサイド改修工事					6,720	
		浄法寺中放送設備改修工事					2,898	
		金田一小学校教室等内装改修工事						6,261
		二戸西小学校放送設備改修工事						1,782
		二戸西小学校プール更衣室改修工事						2,486
	浄法寺中学校下水道接続等工事						6,380	
	金田一中学校バスケットゴール改修工事						4,514	
	③ 事業費	区 分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
決 算 額		福岡中学校建設事業	10,732	93,503	552,062	2,525,661	243,405	
		小中学校リフレッシュ事業	24,578	17,005	8,891	40,938	21,423	
④ 事業評価	総括（成果と課題）	1. 福岡中学校建設事業 ・旧校舎の解体工事を10月迄に終了し、事業の最終段階であるグラウンド整備に着手する計画としていたが、校舎煙突にアスベストが使用されていることが判明し、やむを得ず解体工事の工期を3ヶ月間延長した。 ・解体工事終了後早々にグラウンド整備発注業務を行うなど、雪解け後すぐに工事着手できるよう準備を進めた。 ・旧校舎解体に併せて、二戸消防署員による救助訓練や災害救助犬によるビルサーチ訓練などが行われた。 ・自家発電機を使って携帯電話に充電したり、3階プール水を地上部で採水しての消火訓練を行うなど、新校舎が防災教育の場としても活用された。						
		2. 小中学校リフレッシュ事業 ・教室等内装改修やバスケットゴール改修など施設や設備の老朽化に伴い危険や不具合のある部分について、地域の元気臨時交付金を活用し事業を実施することができた。 ・今後も引き続き施設の老朽化等に伴う不具合部分について、計画的に改善するよう努める必要がある。						

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		教育振興運動の推進等		担当課等		生涯学習課			
事業名称		4 社会教育の充実							
項目名称		(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上－①							
①事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第5条 教育基本法第13条 二戸市社会教育団体補助金交付要綱 二戸市社会教育指導員の設置等に関する規則						
	実施方法		■直接実施 □業務委託 ■補助金交付 □その他（ ）						
	事業費内訳		■国庫補助 □県単 ■一般財源 ■その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		小中学生及びその家庭 市社会教育団体						
	目的（目指すべき姿）		学校、家庭、地域住民及び行政等の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚しながら連携・協力に努め、自主的で創造性に富む心豊かな人間を育成する。また、生きていくために学ぶべき課題をテーマにした講座の実施など、将来の地域を担う子どもたちがたくましく心豊かに育つような体験・交流の機会を提供する。						
	事業内容 （平成26年度）		1 教育振興運動の推進（集約集会の開催、「家庭教育の手引き」配付等） 2 体験的・交流活動の提供（放課後子ども教室、樹陰舎きぼう塾） 3 社会教育団体の支援（7団体への補助金交付） 4 指導体制の充実						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	家庭教育学級開催数	回	48	48	45	43	44
		2	家庭教育講演会開催数	回	1	1	1	1	1
		3	子ども教室実施箇所数	力所	6	6	6	6	6
		4	樹陰舎きぼう塾年間開催数	回		5	5	5	5
		5	補助金交付団体数	団体	6	6	6	7	7
		6	推進センター研修参加者数	人	7	16	25	13	32
	事業効果	1	集約集会参加者数	人	121	109	150	117	140
		2	子ども教室利用者数（延べ）	人	8,174	11,283	13,542	17,122	19,846
3		樹陰舎きぼう塾参加者数（延べ）	人		565	431	456	487	
③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	6,839	7,693	8,057	8,227	8,543
④事業評価	総括（成果と課題）	【教育振興運動の推進】 1. 26年度の集約集会は市PTA研究大会との合同開催としたことで市PTA連合会との連携が深まり、参加者からも「負担が軽減された」「効率的な運営がなされ有意義であった」という声が多数聞かれた。 2. 24年度から国庫委託事業（10/10）の活用により実施していたが、27年度をもって終了が予定されていることから、28年度以降の財源確保が課題となっている。 【体験的・交流活動の提供】 1. 子ども教室の利用者は年々増加し広く認知されてきていることがうかがえる。しかし、それに伴い人員や設備の面で子ども一人ひとりに対してのきめ細かな対応が困難となっている教室もある。27年度から児童クラブの対象学年が順次拡充され、28年度からは国庫委託事業終了に伴い市の財政負担増が見込まれることから、今後の適正な在り方を再検討する必要がある。 2. 樹陰舎きぼう塾では、著名人による講演や郷土学習・被災地訪問・大学訪問など、将来を考え地域を学ぶ機会を提供し、参加者からも好評であった。また、25年度に引き続き、第1回には中学2年生全員を対象とし、幅広く学習機会の提供が図られた。 【社会教育団体の支援】 1. 26年度は福岡工業高等学校創立50周年記念事業に対し補助金を交付し、活動の支援を行った。 【指導体制の充実】 1. 推進センターの研修については、学校や関係団体へも広く参加を呼びかけたところ参加者が増加し、資質向上が図られた。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		公民館各種講座の実施		担当課等		市立公民館			
事業名称		4 社会教育の充実							
項目名称		(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上②							
① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		生涯の各時期に対応する学習機会を充実し、住民の教養の向上、生活文化の振興、健康の増進等に寄与する。						
	事業内容 （平成26年度）		青少年教育、成人教育、女性教育、高齢者教育、芸術文化などに関する各種講座の実施						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	講座の実施数	回	243	230	196	192	199
		2	現代的課題講座数	回		10	10	17	15
		3							
	事業効果	1	講座参加数	人	延5,771	延5,230	延4,419	延4,055	延4,365
		2	講座からサークルへの立ち上げ	団体	1	1	0	0	0
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	1,652	1,551	1,570	1,545	1,444
④ 事業評価	総括 （成果と課題）	1 市民の学習要求は多様化してきており、市民の教養の向上、健康の増進、生きがいのある人生を送るため、生涯にわたる各種事業を実施するよう学習の機会を提供した。また、遠距離講座対象者に対しては、できる範囲において送迎バスを運行し、講座参加の機会を提供している。 市民の学習機会を充実させるために各種講座等の開催（花いっぱい講座・食育講座・スマートフォン講座、高齢者を狙う悪徳商法についての講演やノルディックウォーキング・パークゴルフ等）、知識の習得、趣味、健康の増進が図られ、楽しく参加者相互の交流ができるよう社会教育の施設として市民に活用してもらえるよう努めた。 2 市民の学習要望を的確に把握し、少ない予算で最大の効果を出す努力が必要なため、職員による出前講座を利用している。また、内容によっては、講座の募集人数を多くしないで、少人数でも参加者の満足度を満たす講座への転換が必要と考え取り組んでいる。また、高齢化により参加者が減少傾向にあるため、今後より一層の工夫が必要である。 3 講座募集は、広報・チラシ・FMラジオ等で市民に周知している。また、参加者の意向を知るため、事業終了後にはアンケートを回答してもらい次回の事業に反映させるよう努めている。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	図書サービスの充実			担当課等	図書館				
事業名称	4 社会教育の充実								
項目名称	(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上③								
① 事務事業概要	実施根拠法令		図書館法第3条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする						
	事業内容 (平成26年度)		・ 図書館資料の貸出 ・ 移動図書館車の巡回 ・ 各種講座の開催 ・ ブックスタートの実施						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	開館日数	日	283	245	275	287	282
		2	移動図書館車の運行	日	120	133	96	96	96
		3	各種講座等の開催	回	19	23	29	15	14
		4	ブックスタート事業	回	12	12	12	12	12
		5	読書感想文コンクール	回	1	1	1	1	1
		6	生誕百年記念 渡辺喜恵子展	回				1	
	事業効果	1	貸出人数（移動車含）	人	20,421	19,731	22,505	24,793	25,467
		2	貸出冊数（移動車含）	冊	60,058	65,909	86,688	89,219	91,700
3		新規登録者数（移動車含）	人	685	617	726	720	568	
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	993	1,022	1,765	2,180	1,882
④ 事業評価	総括 (成果と課題)	1. 図書館への関心を高め、より多くの市民に利用してもらえるよう展示・企画等を工夫した。利用者からも好評をいただき、貸出人数・貸出冊数ともに増加した。 2. 貸出人数・冊数は増加したが、新規登録者数は減少した。16歳～18歳と60代を除いて、どの年代でも減少したが、7～12歳の児童と30代・40代の減少が目立っている。児童については、児童数が減少したためと、25年度に未登録児童への登録の呼びかけを学校を通して行い登録が進んだため、26年度新規登録が減ったものと思われる。その他の世代については、機会をとらえて読書の効用を伝え、利用促進につなげる必要がある。 3. 市民のニーズに応えるため、リクエストによる図書購入や県内図書館との相互貸借などにより、効率的な運営に努めた。リクエスト件数は前年度の429件から541件に増加した。文学作品のリクエストが多く、次いで、社会に関する図書・自然科学に関する図書が多くリクエストされた。 4. 郷土史講座、古典文学講座も昨年度に引き続き開催し、市民の学習欲求に応えた。手づくり絵本教室においては、岩手県読書運動推進協議会主催の「手作り絵本」募集に応募し、最優秀賞2名、優秀賞1名が受賞した。 5. 講座等においては、専門知識を持つ講師が高齢となってきたため、後継者等の検討が必要となっている。 6. 窓口業務委託に向けて人材育成を行った。業務委託後も引き続き、市民の多様なニーズに対応できるよう、職員の資質向上を図っていく必要がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	公民館施設の計画的改修				担当課等 市立公民館				
事業名称	4 社会教育の充実								
項目名称	(2) 社会教育施設の環境整備－①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第 20 条から第 42 条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		施設の適正な機能を維持する。						
	事業内容 (平成 26 年度)		施設修繕・機器修繕や更新 中央（修繕 339・原材料 56・備品購入 84・工事請負 4,319）、石切所（修繕 566・備品 283）、 金田一（修繕 853・備品購入 99）、カシオペア（修繕 278・工事請負 5,398）						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	事業の実績	1	修繕件数	件	25	23	20	25	25
		2	委託料	件		1			
		3	工事請負費	件	1	1		2	2
		4	備品購入費	件		7	1	6	8
	事業効果	1	利用者数全館	人	67,248	66,538	61,701	58,832	61,755
③ 事業費	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	決 算 額			千円	4,660	6,243	1,429	11,227	12,275
④ 事業評価	総括（成果と課題）	1 施設の修繕に関しては、分館も含め予想外の修繕も生じることがある。状況を判断し、関係部署と協議し、緊急性がある場合には早急な対応することにより、安全性の確保が保持できている。 2 施設の安全や整備継続のため、修繕件数は、施設の経年化により今後増加することが予想される。（分館の修繕費も増加してきている。） ＜H26 年度修繕内容と改修工事の内容＞ 中央（第二資料室廊下の修理・陶芸教室入口スイッチの修理・男子小便器修理及び点検・下斗米分館屋根修理・旧下斗米小学校プール解体工事） 金コミ（体育館壁・体育館雨水侵入防止・体育館ガラス交換・体育館雨漏り・体育館暖房機・屋根熱面ガラス交換（OMソーラー）） 石切所（調理室床修理・浄化槽送風機修理） カシオペア（大嶺分館フェンス撤去修繕・公用車（軽トラ）修繕・岡本分館玄関扉修繕・川又分館電灯盤修繕・カシオペアセンター設備修繕・火災報知器光電式スポット交換修理）（旧川又教員住宅解体工事） ＜備品購入＞ 中央（FAX・IH炊飯器 2 台）、 金コミ（卓球台 1 台）、 石切所（冷蔵庫・ガス湯沸かし器・電子レンジ・ブラインド大小各 1 台） 3 公民館の利用については、公民館運営審議会や利用者の要望等把握し、設備の更新や、早期修繕等により施設の利便性に努め、市民が利用しやすい環境づくりに努める必要がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	図書館の整備・充実			担当課等	図書館				
事業名称	4 社会教育の充実								
項目名称	(2) 社会教育施設的环境整備-②								
① 事務事業概要	実施根拠法令		図書館法第3条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		資料の充実、施設・設備の整備に努め、地域における学習の拠点としての機能を果たす。						
	事業内容 (平成26年度)		・蔵書の充実 ・図書館システムの活用 ・除湿機の購入 ・移動図書館車修繕（フロントフロア・リヤステップ等） ・排煙装置・防火扉修繕						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	図書購入（寄贈含む）	冊	3,042	4,488	4,832	5,543	5,126
		2	備品購入	件		25	1	5	3
		3	冷温水発生装置改修	式		1			
		4	図書館改修工事 他	式		1			
		5	外壁・屋根等改修工事	式			1		
		6	図書館システム更新	式				1	
	事業効果	1	蔵書冊数	冊	75,984	79,806	84,638	90,181	95,307
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	8,042	49,615	22,371	18,440	10,580
④ 事業評価	総 括 （ 成 果 と 課 題 ）	1. 蔵書数 95,307 冊となり、二戸市教育振興基本計画の数値目標である平成27年度 94,000 冊を達成した。 2. 図書の増加に伴い、2階閲覧室、1階閉架書庫ともに手狭になってきており、図書の保管に限界を迎えつつある。蔵書数の目標値を達成したことから、今後は利用されない図書を除籍するとともに、資料価値の高い図書の保存に向けて、閉架書庫の保存環境の整備を検討していく必要がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	郷土芸能保存団体への活動支援等			担当課等	文化財課			
事業名称	5 芸術文化の振興							
項目名称	(1) 芸術文化の振興－①							

① 事務事業概要	実施根拠法令								
	実施方法		☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☐ 一般財源 ☒ その他（基金繰入金）						
	対象（～に対して）		郷土芸能団体						
	目的（目指すべき姿）		・郷土芸能団体の技術的な向上と継承、活動の活性化を図るため、市指定無形民俗文化財（民俗芸能）団体に対し支援施策を講じることにより、二戸市の特性を生かした個性的な地域文化を創造する。						
	事業内容 （平成26年度）		1 郷土芸能保存団体への活動支援等 ・市指定無形民俗文化財（民俗芸能）団体 17 団体のうち、活動している 13 団体に対する活動支援のための補助金交付（50,000 円×13 団体） ・二戸市郷土芸能祭開催補助金の交付（二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会へ 250,000 円） ・二戸地区郷土芸能発表会開催負担金の交付（40,000 円）						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	事業の実績	1	補助金交付団体数	団体	13	13	13	13	13
		2	市郷土芸能祭参加団体数（市内）	団体	10	11	13	13	13
		3							
		4							
	事業効果	1	市郷土芸能祭観客者数	人	400	400	402	298	750

③ 事業費	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	決 算 額			千円	940	940	940	940	940

④ 事業評価	総括 （成果と課題）	1. 育成補助金の交付や二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会主催の二戸市郷土芸能祭の開催については、郷土芸能団体の後継者育成の練習や発表の場の確保などに役立っている。 2. 市内全域の郷土芸能団体を対象としており、その活動成果を毎年「二戸市郷土芸能祭」で発表することにより、市民への周知を図っている。平成 26 年度は、三圏域（二戸市、久慈市、八戸市）郷土芸能交流祭を兼ねた二戸市郷土芸能祭に市内 14 団体中 11 団体と三圏域から 5 団体の皆さんに出演いただいて開催した。観客数は大幅に増加した。 3. 二戸市郷土芸能祭の開催や三圏域（二戸市、久慈市、八戸市）郷土芸能交流祭の開催などのため、二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会の事務局を市職員が行うことにより、加盟団体や三市などの連絡調整が効率的に行われた。 4. 後継者不足等により活動の継続が危ぶまれている郷土芸能団体が出てきており、支援施策とともに後継者確保についての取り組みが必要となっている。
-----------	---------------	--

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	教育文化団体への活動支援等			担当課等	生涯学習課				
事業名称	5 芸術文化の振興								
項目名称	(1) 芸術文化の振興－②								
① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第5条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		市民・市芸術文化団体・文化施設						
	目的（目指すべき姿）		日々の暮らしの中で優れた芸術文化情報にふれ、鑑賞できる機会が広がっている。また、余暇時間の増大に伴って、市民の芸術文化に寄せる関心も高まり、主婦や高齢者を中心に各種文化サークルの活動が活発になっている。 こうしたなか、市民の芸術文化活動のさらなる奨励を図るため、公民館講座などによる創作・学習機会の提供に努めるとともに、市文化祭を通して発表機会・鑑賞機会の拡充を目指す。						
	事業内容 （平成26年度）		・芸術文化団体への育成補助、文化祭の実施 ・自主文化事業の実施 ・文化会館リフレッシュ事業の実施 （空調設備更新工事、電気設備更新工事、グランドピアノ更新）						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	補助金交付団体数	団体		4	2	2	2
		2	文化祭参加団体数	団体		37	37	38	39
		3	自主文化事業数	回		13	14	16	16
		4	工事名			調光装置等 改修工事	冷却水ポンプ 改修工事	中ホール音響 設備改修工事	電気設備更新工事 空調設備更新工事
	事業効果	1	文化祭入場者数	人		5,467	4,907	4,312	4,439
		2	文化会館利用者数	人		59,269	51,084	69,519	53,914
		3	作品展入場者数	人		—	200	—	—
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円		95,078	10,398	19,577	46,748
④ 事業評価	総括 （成果と課題） 1. 平成23年度から5年間、（株）東北共立が文化会館の指定管理者となっている。 2. 適正かつ円滑な管理運営と、効率的で優れた芸術鑑賞機会の提供に努めているが、市民文化会館自主文化事業の開催などにより、芸術鑑賞機会の充実が図られている。また、文化祭の実施により、市民の自主的な文化活動を推進している。 3. 子どもから大人まで幅広く、芸術鑑賞機会を提供できるように努めるとともに、芸術文化の環境整備に努めている。 4. 利用者数は、25年度に比べて減少している。これは、25年度は県大会レベルの大きな大会が重なったため利用者減が目立っているものであり平年ベースで比較すれば、年度によって増減はあるものの、ほぼ横ばいである。 5. 芸術文化団体の組織強化と、市民が主体的に活動に参加し、その成果を発表できる環境づくりが求められている。また、日常的に芸術文化に触れる機会や優れた鑑賞機会の提供・支援に努めることが求められている。 6. 文化会館の開館時より使用していたコンサート用グランドピアノの更新を行うことができた。								

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	天台寺文化財修繕事業の促進			担当課等		文化財課			
事業名称	5 芸術文化の振興								
項目名称	(2) 文化財の保護・保存と活用－①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		文化財保護法						
	実施方法		☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☒ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		天台寺						
	目的（目指すべき姿）		・ 重要文化財である天台寺の本堂・仁王門の解体修理を支援・推進する。						
	事業内容 （平成26年度）		1 天台寺文化財修繕事業の促進 ・ 文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会への参加（情報収集） ・ 関係機関（国及びその外郭団体、県、寺等）との協議、打合せの推進						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	協議会へ参加	回		1	1	1	1
		2	関係機関との協議	回		4	3	5	1
		3	会議等への出席	回		1	1	2	2
		4	保存修理委員会の開催	回				3	4
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円		225	182	4,525	9,899
④ 事業評価	総 括 （ 成 果 と 課 題 ）	1. 現在の天台寺本堂・仁王門は江戸時代前期（約350年前）の建築であり、腐朽が進み早急な修復が必要とされ、平成25年9月より国庫補助として保存修理工事に着手している。 なお、解体作業が進んでいる中で、想像以上に腐朽が進んでいることが確認され、事業費が膨らむことが懸念される。							
		2. 文化庁等の関係機関と協議を重ねることで現在進めている保存修理工事に必要な情報共有し、速やかな事業推進が図られた。また、文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会等への参加の結果、修復事業に必要な情報収集が図られた。 3. 保存修理工事の進捗にともない、宗教法人天台寺、文化庁と適切な時期に協議を行い、効率性に取り組んだ。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	史跡九戸城跡の保護と活用			担当課等		文化財課			
事業名称	5 芸術文化の振興								
項目名称	(2) 文化財の保護・保存と活用－②								
① 事務事業概要	実施根拠法令		文化財保護法 二戸市文化財保護条例 二戸市文化財保護条例施行規則						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		・ 史跡の保存・保護並びに活用のため、学術調査や危険箇所の補強・修景工事などを実施し、将来的には史跡公園化を図る。 ・ 史跡九戸城跡における史跡指定地買上げ（平成 30 年度完了予定）						
	事業内容 （平成 26 年度）		1 史跡九戸城跡の保護と活用 ・ 史跡指定地内の民有地の公有化 ・ 二ノ丸跡の内容確認調査の実施 ・ 史跡九戸城跡情報発信・活用事業の実施 ・ 史跡九戸城跡整備指導委員会の開催 ・ 九戸城ボランティアガイドの会、九戸城を活かす会への補助金交付						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	事業の実績	1	購入面積	㎡	1,237.09	1,174.00	3,780.00	153.46	195.92
		2	学術調査	㎡	700	500	500	0	600
		3	整備指導委員会	回	1	1	1	1	2
		4	補助金交付団体数	団体	2	2	2	2	2
	事業効果	1	九戸城跡来訪者ガイド案内者数	人	2,371	2,494	2,537	2,181	2,927
③ 事業費	区 分			単位	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
	決 算 額			千円	29,744	20,081	28,081	32,353	30,393
④ 事業評価	総括（成果と課題）	1. 平成 26 年度は、史跡公有化事業によって 195.92 ㎡を購入し、史跡指定区域内の公有地化を計画している総面積 189,620.23 ㎡のうち、174,451.53 ㎡（92.0%）の公有地化が完了した。また、居宅 1 棟等の移転等の補償を行った。平成 30 年度の事業完了に向けて、継続的に取り組む必要がある。 2. 九戸城跡の来訪者数は増加傾向であるが、土日の九戸城跡の案内を九戸城ボランティアガイドの会が行うなど、関係団体と連携し九戸城跡の活用に努めた。今後も関係団体との調整を図っていく必要がある。 3. 史跡九戸城跡はまちづくりの中核をなす重要な遺跡であり、その保護保存と活用は不可欠な主要施策である。整備指導委員会では第 2 次整備計画案の作成を指導いただいており、整備計画策定を進めている状況である。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		市内遺跡発掘調査事業等		担当課等		文化財課			
事業名称		5 芸術文化の振興							
項目名称		(2) 文化財の保護・保存と活用－③							
①事務事業概要	実施根拠法令		文化財保護法 二戸市文化財保護条例 二戸市文化財保護条例施行規則						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☒ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（受託料）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		・ 市内遺跡から出土した埋蔵文化財の保護活用の推進 ・ 埋蔵文化財包蔵地の保護 ・ 市民の郷土・歴史や文化財に対する関心・理解を深める。						
	事業内容 （平成26年度）		1 市内遺跡発掘調査事業等 ・ 市内遺跡の緊急発掘調査、室内整理作業、報告書の作成 ・ 埋蔵文化財の科学的な保存措置の実施 ・ 体験学習の実施（土器づくり、発掘調査） ・ 土地区画整理事業に先立つ緊急発掘調査の実施（晴山地区、前小路地区） ・ 下水道敷設工事に先立つ緊急発掘調査の実施（八幡平地区、在府小路地区） ・ 市内の文化財調査 ・ 市指定有形文化財（槻蔭舎）修理への助成						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	発掘調査	件	1	3	4	5	11
		2	体験学習の回数	回	46	54	10	2	2
		3	保存処理	個	26	78	99	98	33
		4	文化財調査	件		4	4	4	3
	事業効果	1	文化財指定	件			1	1	
③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	34,600	37,122	38,389	39,304	48,630
④事業評価	総括（成果と課題）	1. 埋蔵文化財に関しては、発掘調査（11件）の実施、遺跡調査報告会の開催、体験学習（2回）の開催など保護活動が有効に図られた。 2. 文化財調査委員会議の開催（2回）、文化財調査を実施することで指定候補物件の検討を図ることができた。 3. 発掘調査に関わる関係機関との連絡協議を随時実施している。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	市史編さん事業の推進			担当課等	生涯学習課			
事業名称	5 芸術文化の振興							
項目名称	(3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承-①							

① 事務事業概要	実施根拠法令							
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）					
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）					
	対象（～に対して）		市 民					
	目的（目指すべき姿）		二戸市固有の地域文化についての調査・保護・保存・活用を通して、市民の郷土への誇り、郷土愛を育む。また、市史の発行を通して、本市の成り立ちや歴史、先人などの足跡を知り、それぞれの家庭で語り合えるよう、史料叢書の完成を目指す。					
	事業内容 (平成26年度)		史料叢書の発行					

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	史料叢書発行	集	第12集「五日町 検断所文書・御蔵 肝入控帳」	第13集「二戸郡 福岡村用係文書」	第14集「東北の 松下村塾 会輔 社（上）」	第15集「東北の 松下村塾 会輔 社（中）」	第16集「東北の 松下村塾 会輔 社（下）」
		2	史料叢書別冊発行	巻				続二戸歴史物語 (増刷)	
		3	資料復刻集発行	巻	郷土教育資料復 刻集・福岡編Ⅰ	郷土教育資料復 刻集・福岡編Ⅱ～ Ⅴ	郷土教育資料復 刻集・浄法寺編Ⅰ	郷土教育資料復 刻集・浄法寺編Ⅱ	
		4							
	事業効果	1	印刷物売捌料	千円	703	276	282	266	84

③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	3,753	4,776	4,284	5,345	4,199

④ 事業評価	総 括 (成果と課題)	1. 市史編さん嘱託員2人のほか、資料調査員1人で、収集した史料をまとめている。 2. 平成26年度は、二戸史料叢書第十六集「東北の松下村塾 会輔社（下）」を発刊。400冊、2,000円。 3. 市史編さん嘱託員は高齢であり、後継者の問題がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業		歴史民俗資料の収集と研究の推進		担当課等		文化財課			
事業名称		5 芸術文化の振興							
項目名称		(3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承－②							
①事務事業概要	実施根拠法令		二戸市立歴史民俗資料館条例 二戸市立歴史民俗資料館管理規則						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（使用料等）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		・学術文化の発展に寄与するため、歴史民俗資料館を設置する。 ・二戸市立歴史民俗資料館運営委員会を開催し、「資料の収集、保管、展示等に関すること」「資料の調査研究、利用等に関すること」「その他資料館の運営に関すること」に関し調査審議し、資料館の円滑な管理運営を図る。						
	事業内容 (平成26年度)		1 歴史民俗資料の収集と研究の推進 ・調査研究、各種照会への対応 ・各種講座の開催 ・二戸市立歴史民俗資料館運営委員会の開催（5月、11月）						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	入館者数（二戸）	人	1,157	1,146	1,000	826	1,041
		2	〃（浄法寺）	人	944	603	764	669	639
		3	講座等（二戸）	回	19	18	19	20	18
		4	〃（浄法寺）	回	2	5	5	4	-
	事業効果	1	講座等参加者（二戸）	人	703	804	943	685	862
		2	〃（浄法寺）	人	277	583	211	422	-
③事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	7,464	7,814	5,617	6,090	6,312
④事業評価	総括（成果と課題）	1. 二戸・浄法寺両資料館は、それぞれの地域の特色を生かした展示をしている。また、過去の民俗資料等の受け皿としての機能を果たしており、各種照会についての対応も行っている。各種照会については二戸資料館が58件、浄法寺資料館が64件である。また文化祭期間中に、二戸資料館では、特別展「二戸市産出の化石展」を開催し約130人が来館、浄法寺資料館では、「昔の子供～祭り・遊び・日常生活」と題した特別展を開催し404名が来館した。なお、講座等については、二戸資料館では「新・にのへ物語Ⅸ」を8回開催し、参加者は延べ189人、浄法寺資料館では、「遠野7観音巡り」を2日間で実施し、26名の参加を頂いた。 2. 市内外の小学校の学習の場としても利用されている。（二戸資料館7校、浄法寺資料館2校） 3. 地域の文化・歴史・民俗などを知るうえで、展示している資料は貴重な宝であり、後世に永く伝えることが求められている。 また、調査研究を進め、新たな民俗風習等を解明する必要がある。							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	スポーツ指導者の育成・健康づくりの支援等			担当課等		生涯学習課			
事業名称	6 スポーツ・レクリエーションの振興								
項目名称	(1) みんなが楽しむスポーツの振興－①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		スポーツ基本法、二戸市立学校施設の開放に関する規則						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		・総合型地域スポーツクラブの設置により、市民が身近な地域でスポーツに親しめる環境整備に努める。 ・スポーツ指導者の育成を図り、スポーツ・レクリエーション活動の普及に努める。 ・学校体育施設を地域の生涯スポーツ活動施設として開放し、市民の体力向上に努める。						
	事業内容 （平成26年度）		1 総合型スポーツクラブの創設援助 2 スポーツ指導者の育成支援 3 教育委員会が指定した学校の体育施設の開放 4 スポーツ・レクリエーション活動の普及						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	総合型スポーツクラブ数	団体	2	2	2	2	2
		2	スポーツ少年団指導者数	人	168	163	163	150	145
		3	学校開放事業利用登録団体	団体	15	15	11	14	13
		4	利用日数	日	317	306	211	278	339
	事業効果	1	指導者研修受講者数	人	6	7	12	14	16
		2	学校開放事業利用人数	人	3,583	3,474	2,232	3,610	4,401
	③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決 算 額			千円	98	132	125	119	104	
④ 事業評価	総 括 （ 成 果 と 課 題 ）	【総合型スポーツクラブの創設援助】 1. 当市には、カシオペア氷上スポーツクラブと浄法寺スポーツクラブがあり、会員と地域住民により自主運営されており、市民へ運動の機会を提供している。 2. 各種スポーツ教室の実施により、市民が運動に取り組むきっかけづくりとなっている。 3. 今後のクラブ創設にあたり、地域をまとめリーダーシップが取れる人材の育成が必要である。 【スポーツ指導者の育成支援】 1. 年2回開催される研修会等には、各種スポーツの指導に携わる人達を派遣し、指導者研修並びに資格取得を図り、指導体制の充実を図った。 2. 子どもたちのスポーツ活動の情報交換と指導方法についての意見交換の機会となった。 3. スポーツ少年団の指導者は保護者が多いため、子どもが退団すれば指導者登録をしないので、人数は減少傾向にある。 4. 指導者の育成支援には、学校や保護者等との連携並びに情報交換をする機会の設定が必要である。 【教育委員会が指定した学校の体育施設の開放】 1. 学校の体育施設を開放することにより、定期活動したい団体への貸し出しが可能となり、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりが図られた。 2. 学校に屋外照明施設が設置されるようになり、体育館以外も開放事業として行うか検討する段階にきている。 【スポーツ・レクリエーションの普及】 1. 市民総参加スポーツ大会をはじめ、ニュースポーツ大会などを実施し、スポーツに親しむ機会の提供を図った。 （総参加スポーツ大会 5競技 260人 浄法寺地区体育祭 300人 ニュースポーツ大会 4競技 125人） 2. 市民の要望に沿ったスポーツ教室の実施に努めた。 （水中運動教室 全12回 103人 パークゴルフ教室 全8回 135人）							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	スポーツ施設の整備・充実			担当課等		生涯学習課			
事業名称	6 スポーツ・レクリエーションの振興								
項目名称	(1) みんなが楽しむスポーツの振興－②								
① 事務事業概要	実施根拠法令								
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		・既存の施設の整備を進めるとともに、市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動ができる施設の整備や充実に努める。						
	事業内容 （平成26年度）		1 体育施設の整備、修繕、改修						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	修繕	件	44	40	3	3	3
		2	改修工事	件	3	2	4	6	6
	事業効果	1	大規模改修	件	3	2	1	4	3
③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	10,989	19,497	113,574	42,089	184,452
④ 事業評価	総 括 （ 成 果 と 課 題 ）	1. 指定管理者が行う修繕工事では手続きが簡素化されたことにより、従前より修繕期間が早まった。 2. 地域の元気交付金や補助金等の活用により、効率的な施設整備が図られた。 3. 二戸市テニスコートと浄法寺相撲場の解体・廃止を行った。 4. 修繕や改修は計画的に実施しているが、老朽化による解体撤去も含めて検討していく必要がある。 5. 改修工事費のかさむ施設は早期修繕が難しいため、優先順位を考慮しながら進めている。 6. 各施設とも駐車場が不十分な状態であり、拡張や舗装など環境整備が必要である。 <平成26年度に実施した修繕（単位：千円）> 大平球場玄関屋根修繕（544）、総合スポーツセンター非常照明バッテリー交換（442）、 総合スポーツセンター不凍液交換（1,188） <平成26年度に実施した工事請負費（単位：千円）> 総合スポーツセンター改修工事（建築・電気・機械）（163,529）、大平球場送水ポンプ更新（2,970）、 浄法寺相撲場解体撤去工事（6,487）、テニスコート解体撤去工事（9,292）							

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

主要事業	各種スポーツ大会・教室の開催			担当課等	生涯学習課			
事業名称	6 スポーツ・レクリエーションの振興							
項目名称	(2) 夢と感動の競技スポーツの推進							

① 事務事業概要	実施根拠法令	補助金交付要綱						
	実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳	☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☐ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）	市民						
	目的（目指すべき姿）	・県大会以上のスポーツ大会を招致・開催することにより、競技スポーツ技術の習得とスポーツに対する市民の意識の高揚を図る。						
	事業内容 （平成26年度）	1 各種スポーツ大会等の開催補助						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	事業の実績	1	岩手総体記念 剣道練成大会	回	1	1	1	1	1
		2	東北総合体育大会 剣道競技	回	1				
		3	日本車いすカーリ ング選手権大会	回		1	1		
		4	B j リーグ 公式戦	回		1	1	2	2
		5	県学童新人野球大 会	回	1	1	1	1	1
		6	オリンピックパブリ ックビューイング	回				6	
	事業効果	1	県大会以上 出場者数	人	803	713	722	731	764

③ 事業費	区 分			単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	決 算 額			千円	590	810	1,090	990	990

④ 事業評価	総 括 （成果と課題）	1. 全国レベルのスポーツ大会・イベントの招致により、市民の競技力向上に対する意識の高揚が図られた。 2. 一流アスリート等によるスポーツ教室の実施では、技術の習得と指導者の知識向上が図られた。 3. 県大会等大きな大会に出場することで、技術の向上と精神鍛錬の機会となった。 4. 継続的な実施により、学習機会の拡充と技術や知識の習得が常に得られる環境づくりが必要である。 5. 選手の強化や技術支援などの対策が必要である。 ＜県大会以上の開催実績＞ 岩手総体記念剣道練成大会約900人、b j リーグ公式戦約2,000人、岩手県学童新人野球大会約800人 ＜一流アスリート等によるスポーツ教室・実績＞ 阿部繁孝野球教室238人、ドリームベースボール野球教室151人							
-----------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--